

R8 年度

令和8年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

(令和〇年〇月〇日作成)

久米島町			(令和○年○月●日作成)												
事業 パ ー チ	事業名	計画期間		事業概要		R8成果目標（指標）	定 量 ○ ×	R8成果目標（詳細理由）		定量的な成果目標（指標）が 設定できない場合に記載		備考（後年度効果が発現する成果目標）			
		事業始期	事業終期	R8事業内容	R8活動目標（指標）			成果目標設定の根拠・考え方	定量的な成果目標（指標） を設定できない理由	後年度効果が発現する 成果目標（指標）	後年度効果が発現する成果目 標（指標）の根拠・考え方	今後の展開方針	補足説明等		
①	②	③		④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬＝⑧又は⑪		
		年	月	年	月				⑦が「×」の場合、記載	⑦が「×」の場合、記載	⑦が「×」の場合、記載	⑧⑩を簡略化記載	⑦が○の場合、⑧を簡略化 ⑦が×の場合、⑬を簡略化		
1	① 優良雌牛導入事業	26	4	14	3	肉用子牛の品質及びセリ価格を向上 させることで、畜産農家の経営の安定 化を図るため、畜産農家に県内外の 優良繁殖雌牛を導入する沖縄県農 業協同組合に導入に係る経費の支 援（補助）を行う。	優良繁殖雌牛への支援：50件 （頭）	■導入した優良雌牛から生まれた子 牛とそうでない子牛との価格差の割 合：107%以上	○	■本事業の目的から成果目標は農家の 経営安定に向けた子牛の品質及び価格 の向上しか測れる子牛のセリ価格等を設 定すべきであるが、セリ価格は他の要因に 影響を受けるため、全体的なセリ価格の高 騰や低落など市場の状況に応じて比較が 可能な「優良雌牛から生まれた子牛の価 格とそうでない子牛との価格差の割合」で 効果を検証することとした。指標について は、R4年度からR6年度までの実績平均 値以上とした。 【価格差計算式】 (A)導入した優良雌牛から生まれた子牛 の平均価格 (B)そうでない子牛の平均価格 (C)成果目標＝(A)/(B) 【成果目標】 （実績） R4:106%、R5:108%、R6:106% (106+108+106)/3＝106.6%	—	—	—	【今後のスケジュール】 優良繁殖雌牛の導入を促進し、肉 用子牛の産地として定着させていく。	【R8成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
2	① 久米島袖販売促進事 業	24	6	14	3	久米島袖及び関連商品の売上増加 を図るため、久米島袖事業協同組合 が実施する久米島袖の新商品開発 や販促開拓等の取組を支援（補 助）する。	・物産展等への出展：2回 ・呉服店(問屋)へのセールス：1回 ・産地展示販売スペースの整備：1 件 ・産地展示販売：3回 ・アドバイザー招聘：12回	久米島袖及び関連商品の年間売上 高 ■反物売上額:7,659万円以上 ■小物売上額:1,909万円以上	○	・過去3ヵ年（コロナ禍を除く）の最 高値以上を設定。 式：目標値＝過去最高値*1.1 ■反物売上額 R1:6,963万円（年度末～コロナ禍）・ R2～4:コロナ禍 除外 R5:6,466万円 R6:6,948万円 R7:7,000万円程度（参考:11月時 点） ■小物売上額 R1:1,041万円（年度末～コロナ禍） R2～4:コロナ禍 除外 R5:1,630万円 R6:1,736万円 R7:1,850万円程度（参考:11月時 点）	—	—	—	【今後のスケジュール】 県内外での販売促進に加え、産地 久米島における展示会も開催するこ とで、袖関連商品の売上増加を目指 す。	【R8成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
2	② 久米島特産品販路開 拓事業	25	5	14	3	久米島産の特産品の売上の向上を 図るため、経営規模が小さい久米島 の特産品事業者の販路拡大に向け て、久米島商工会が行う特産品の販 促活動やPR活動を支援（補助）す る。	・県内外での物産展開催、出展：県 外2回、県内4回	■開催・出展した物産展における久 米島産の特産品の販売額： 30,200千円 ■商談会参加事業者の年間新規取 引先：3件	○	■開催・出展した物産展における久米島 産の特産品の販売額 過去5年間の実績の最高値を上回る指 標を設定 30,964千円*1.1≒34,060千円 （実績） R2: 6,626千円 コロナ禍 R3:12,508千円 コロナ禍 R4:15,948千円 コロナ禍 R5:27,489千円 R6:30,964千円 ■商談会参加事業者の年間新規取引 先 商談会に年間2回程度参加し、それぞれ1 取引先を獲得することを目指し、それに加 え1件上乗せた目標を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 島特産品の売上の向上に向けて、物 産展等の目下の売上げ及びPRから、 継続取引先確保のための商談会開催 へと比重を移行していく。	【R8成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。

3	①	観光誘客促進事業	26	4	14	3	久米島の知名度向上、観光客の利便性向上及び観光開散期における観光誘客を図るため、内外における観光広報活動や、SNSによる情報発信、空港等への観光案内所の設置、フィルム・ツーリズムの受入準備等を実施する。	・観光広報：5回 ・久米島観光案内業務：2箇所 ・久米島全島大試泊会開催：1回 ・フィルム・ツーリズムの受入準備（映画ロケ地関連イベント）：1回	■久米島に旅行で訪れてみたいと回答した割合：80%以上 ■久米島への観光入域者数：130,000人	○	■島外のプロモーションに来場者を対象にアンケートを実施し本事業の効果や方向性を検証する。指標については、対象者のうち大多数が訪れてみたいと考えられる数値として80%以上を設定。 ■久米島町観光振興基本計画に基づき設定した。 【実績】 ・H27:103,551人 ・H28:111,546人 ・H29:109,742人 ・H30:103,309人 ・R01:100,716人 ・R02: 54,783人 ・R03: 54,206人 ・R04: 84,779人 ・R05: 90,082人 ・R06: 88,527人	—	—	—	【今後のスケジュール】 第3次久米島観光振興計画に基づき観光入域数の目標達成に向けて観光振興施策を実施する。	【R8成果目標設定の考え方】 ■アンケート対象者の大多数が訪れてみたいと考えられる数値としてアンケートにより検証する。 【R8成果目標設定の考え方】 ■久米島町観光振興基本計画に基づき設定した。
3	②	体験交流型観光商品開発販売促進事業	26	4	14	3	観光消費額の増加を図るため、観光開散期における教育旅行等の団体客誘致に向けて、県内外における誘致活動や体験プログラムの販売促進等を実施する。	・教育旅行の誘致活動：5回以上 ・教育旅行誘致：12校 ・受入人数：1600人以上	観光体験プログラム売上額 ■教育旅行:17,996,000円以上	○	■過去3年間の伸び状況を勘案して、R6年度以上の数値を目標値として設定。 式:16,359,640円*1.1+17,996,000円 【実績】 ・R3年度: 530,750円 ・R4年度:11,391,500円 ・R5年度:13,794,110円 ・R6年度:16,359,640円	—	—	—	【今後のスケジュール】 観光開散期の入域数の底上げによる平準化を目指して、体験プログラムの質の向上や観光関連商品の売上増加に取り組む。	【R8成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
3	③	久米島観光ブランディング事業	4	7	14	3	「食」をテーマとしたブランド化を通じた観光消費額の増大を図るため、ご当地グルメ等を発掘し、プロモーションを行うことで販売を促進する。	・島グルメのプロモーション活動：通年 ・島グルメの販売促進（イベント開催）：2回 ・島グルメ参画事業者の拡大：25店舗 ・ブランド保持に向けたサポート（勉強会開催）：2回	■一人当たりの観光消費額（食事・お酒）：15,586円	○	■久米島町観光振興基本計画(期間5年間(R6～10))に掲げる一人当たりの観光消費額目標値(R10)から逆算して設定。 【基準値(R4)と目標値(R10)】 13,306円(R4)→19,000円(R10) 【成果目標値の算出】 (19,000円-13,306円)=5,694円 5,694円/5年間=1,138円/年増加目標 19,000円-(1,138円*3年)=15,586円	—	—	—	【今後のスケジュール】 久米島観光の認知度向上を図り、観光資源を活かした地域ブランドの確立を目指す。	【R8成果目標設定の考え方】 ■久米島町観光振興基本計画に掲げる一人当たりの観光消費額目標値を設定した。
3	④	アウトドアツーリズム展開促進事業	5	4	9	3	久米島観光における付加価値の創出を促した新たな顧客層の誘客を図るため、新たな旅のスタイルとして注目されているアウトドアツーリズムを、奥武島キャンプ場を拠点に商品化し販売を促進する。	・アウトドアツーリズムの商品化：3件	■奥武島キャンプ場の利用者数：1,800人	○	■過去の実績のうち直近3年の推移を勘案して設定。 【実績】 H27年度: 827人 H28年度: 820人 H29年度: 724人 H30年度: 872人 H31年度: 874人 R2年度: 343人 R3年度: 496人 R4年度: 1,036人 R5年度: 1,399人 R6年度: 1,637人 R7年度: 1,700人見込み	—	—	—	【今後のスケジュール】 アウトドアツーリズムを展開することにより、開散期の誘客促進及び島内で生産された食材を取り入れたサービスの提供することにより、地域経済の循環につなげていく。	【R8成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
3	⑤	観光地等環境美化強化事業	5	4	14	3	魅力的な観光地としての景観形成を図るため、観光地へのアクセス道路や、観光地として利用されている広場等の環境美化を行う。	・環境美化作業の実施：町内46か所	■観光地として魅力的な景観であると回答した観光客の割合：80%以上	○	■観光客を対象にアンケートを実施し本事業の効果や方向性を検証する。指標については、対象者のうち大多数が魅力的な景観であると考える数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 観光客の動向や自然環境の変化に注視しながら、最適な回数、美化活動箇所、内容を検討しながら、継続的に環境美化作業を実施する。	【R8成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が魅力的な景観であったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。

参考3(別紙様式第5)

3	⑥	スポーツコンベンション推進事業	5	7	14	3	スポーツキャンプ・合宿のより一層の誘致を図るため、野球関連施設をプロ野球チーム等に求められる水準を満たす競技環境に整備する。	・野球場：高品質（透水性・硬度・均一性等）な土・芝生の整備・管理 ・野球場：安全性を高めるためのセーフティフェンスの改修：1 件	■スポーツキャンプ、合宿受入件数：11件	○	■過去最高値を上回る数値を設定。 【実績】 H28年度：9件 H29年度：9件 → H30年度：9件 → R1年度：8件 〳 R2年度：0件 〵 R3年度：1件 〵 R4年度：8件 〵 R5年度：8件 → R6年度：10件 〵	—	—	—	【今後のスケジュール】 競技団体からキャンプ・合宿地として選ばれる競技環境を整備し、キャンプ・合宿の継続的な誘致を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
---	---	-----------------	---	---	----	---	--	---	----------------------	---	---	---	---	---	--	------------------------------------

3	⑦	久米島まつり活性化事業	7	4	14	3	久米島来島の契機となり得る魅力的な久米島まつりを開催することで、観光地としての認知度の向上及び入域観光客数の増加を図る。	・久米島まつり開催1回	■久米島まつり来場者数：10,000人	○	■久米島まつり来場者数 本事業の目的から成果目標は、久米島まつりに来場した観光客数を設定すべきであるが、これを計測することは技術的に困難であるため、久米島まつり来場者数で検証することとした。指標については、R7実績が対前年で1,400人増加したことを踏まえ設定。 【実績】 H30：9,063人 R01：8,438人 ㇏ R02：中止 R03：中止 R04：9,212人 ㇏ 町民20周年イベントとして開催 R05：8,353人 ㇏ R06：7,500人 ㇏ R07：8,900人 ㇏	—	—	—	【今後のスケジュール】 久米島に来島する契機となるよう久米島まつりの内容を魅力化に取り組み、来場者の増加と、観光リピーターの確保つなげる。	【R8成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
4	①	英語指導員配置事業	24	8	14	3	小学生の英語への興味・関心を高めるため、小学校低学年に英語指導員を配置し、外国語授業等の支援を行う。	英語指導員配置数：小学校2名	■英語に対する興味・関心が高まったと回答した児童の割合：80%以上	○	児童を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が英語への興味・関心が高まったと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 継続的に英語指導員を配置による支援に取り組むことで、広い視野を持ち、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成してい。	【R8成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が英語への興味・関心が高まったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
4	②	基礎学力向上学習支援員配置事業	26	4	14	3	児童の学力向上を図るため、小学校に基礎学力向上学習支援員を配置し、国語・算数を中心に学習未定着の児童に支援を行う。	基礎学力向上学習支援員配置数：小学校3名	■小学5・6年生の沖縄県到達度調査における国語・算数の平均正答率：県平均以上 ■小学4年生の学びのたしかめにおける算数の平均正答率：県平均以上	○	県平均正答率以上を設定。 ※国＝国語、算＝算数、()は県平均 ■小学校5・6年生の沖縄県到達度調査の平均正答率の実績 ・R4 5年:国70.5(68.8)、算46.1(48.3) 6年:国66.1(65.9)、算58.2(57.5) ・R5 5年:国11.1(10.3)、算10.4(9.4) 6年:国11.4(11.2)、算8.3(8.2) ・R6 5年:国10.2(9.7)、算8.5(7.0) 6年:国10.9(11.0)、算9.1(8.9) ■小学4年生の学びのたしかめの平均正答率の実績 ・R4:国10.9(10.2)、算8.4(8.0) ・R5:県システム不具合により把握できない R6:国5.9(5.5)、算9.5(8.5) ※R7より算数のみ実施となったため国語を成果目標から除外した	—	—	—	【今後のスケジュール】 継続的に学習未定着の児童を中心に個々の習熟に応じた学習支援に取り組む、学力を底上げしていく。	【R8成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
4	③	特別支援教育支援員配置事業	26	4	14	3	特別な支援を要する児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図るため、特別支援教育支援員を各学校に配置し、多様なニーズに対応したきめ細やかな支援を行う。	特別支援教育支援員を配置：小学校9名、中学校2名	■特別支援教育支援員の対応に満足していると回答した対象児童生徒の保護者の割合：80%以上	○	■本事業の目的は支援を要する児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善であるところ、それを指標化することは難しいことから、代替として、対象児童等を普段から見守る立場である保護者を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が満足していると考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 継続的に困難を抱える児童生徒に対して支援を行い、学校生活や学習上の困難の改善していく。	【R8成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が満足していると考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。

4	④	小中アシスト相談員配置事業	4	4	14	3	児童生徒の社会的自立に向けて不登校の児童生徒の登校復帰を促進するため、アシスト相談員を小・中学校に配置し、学校とアシスト相談員協働で不登校の児童生徒が登校できるよう支援する。	・アシスト相談員を配置：小・中学校2名	■不登校率の減少：1ポイント	○	■対前年比でR5まで増加傾向であったが、R6は0.4ポイント減少に転じたことから、それ以上の目標値を設定。 【不登校率】 ・R2:2.2% (15名/675名) ・R3:2.4% (16名/665名) ㄴ ・R4:2.6% (17名/664名) ㄴ ・R5:6.3% (40名/630名) ㄴ ・R6:5.9% (37名/624名) ㄴ 式:不登校児童生徒数÷在籍児童生徒数 【登校復帰児童生徒数】 ・R2:小0名、中5名、計5名 ・R3:小0名、中0名、計0名 ・R4:小0名、中1名、計1名 ・R5:小1名、中0名、計1名 ・R6:小1名、中0名、計1名 【不登校児童生徒数】 ・R2:小 5名、中10名、計15名 ・R3:小 0名、中16名、計16名 ・R4:小 0名、中17名、計17名 ・R5:小20名、中20名、計40名 ・R6:小 18名、中19名、計37名	—	—	—	【今後のスケジュール】 いじめの積極的な認知を図り、新規不登校者を抑えながら、不登校児童生徒の登校につなげていく。	【R8成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
4	⑤	学校ICT活用支援事業	5	4	13	3	ICTを活用した分かりやすい授業を実施することで児童生徒の情報活用能力の向上につなげるため、教職員の効果的なICTの活用を支援するほか、授業をさらに効果的なものにするために特別支援学級に電子黒板を整備する	・ICT支援員の配置：1名 ・サービスデスクの設置：1件 ・電子黒板の整備：14台	■ICT活用により授業が分かりやすかったと回答した児童・生徒の割合：80%以上	○	■児童・生徒を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が分かりやすかったと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 ICTを活用した分かりやすい授業を実施することで、児童・生徒の情報活用能力を育成していく。	【R8成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が分かりやすかったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
5	①	地域型就業意識向上支援事業	30	4	14	3	児童生徒に産業や職業の魅力を伝え、就業意識の向上を図るため、児童生徒を対象としたキャリア教育等を実施する。	・ジョブシャドウイング(小):6回 ・わくわくワーク(小):2回 ・職場体験(中):2回 ・職業人講話(小中高):9回 ・グッジョブ連携協議会の開催:2回 ・追跡調査の実施:1回	■就業に対して理解が深まったと回答した児童生徒の割合：80%以上	○	■児童・生徒を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が分かりやすかったと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 まずは久米島の産業について興味を持たせ、児童生徒自らが学校生活を満ちたと考えられる値として設定した。送る中で、進学・就学をイメージした取り組みができるよう取り組む。	【R8成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が理解が深まったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
5	②	ホームステイ等派遣事業	5	4	14	3	児童・生徒に国際的な視野を持たせるため、中学生の海外ホームステイ派遣及び小学生の島内在住外国人交流を実施し、異なる言語や文化等への理解を深める機会を提供する。	・海外ホームステイへの派遣：中学生2人 ・島内在住外国人との交流：小学生12人	■国際的な視野が広がったと回答した生徒の割合：80%以上 ■英語に対する学習意欲が向上したと回答した児童の割合：80%以上	○	■児童・生徒を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が国際的な視野が広がった・学習意欲が向上したと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 海外ホームステイ、島内在住外国人との交流を通して語学力向上ならびに異文化理解を深め、国際社会において主体的に行動できる人材を育成していく。	【R8成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が分かりやすかったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
5	③	久米島現代版組踊推進事業	24	4	14	3	地域住民等の久米島の歴史・文化に対する興味・関心を高め、保存・継承につなげるため、小中高年生による久米島の歴史的遺産を題材に、沖縄に古くから伝わる古典芸能「組踊」をベースに、琉舞、エイサー、空手等の民俗芸能の要素を取り入れた現代版組踊の舞台公演等を実施する。	・現代版組踊公演：1回 ・各種イベントへの出演：6回	■久米島の歴史・文化に対する興味・関心が高まったと回答した舞台公演来訪者の割合：80%以上	○	■公演来場者を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が興味関心が高まったと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 新たなメンバーの参加を募り、舞台の活動を通して久米島の歴史文化に対する理解を深め、地域住民をはじめ内外に発信していく。	【R8成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が興味・関心が高まったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。

5	④	文化遺産保存活用事業	24	7	12	3	古くから中国、東南アジア諸国等との交易・交流を通じて形成された沖縄独自の歴史・文化を保存・継承するため、久米島にのこる近世久米島の歴史及び中国文化、江戸文化の受容の一端を読み取れる貴重な資料「古文書」を修復、翻刻口語訳し公開・活用する。	・古文書の修復：100件 ・修復した古文書の翻刻、口語訳：30件	■修復文書速報ロビー展覧学者数：6,320人以上 ■修復を行った古文書の調査利用件・社数：60件以上、5名以上	○	過去の実績平均を上回る数値を設定。コロナの影響を受けたR2～R5はイレギュラー値として除外。 ■修復文書速報ロビー展覧学者数 修復資料は博物館入館者全員の目に触れる場所に展示することから、博物館年間入館者数を目標とした。指標はコロナ禍前4年(平均)以上の数値を設定。(平均:6,319人) 【実績】 H28:6,699名(久米島総展開催) H29:5,675名(特別展開催なし) H30:6,773名(古文書展開催) R1 :6,129名(久米島総展開催) R2～4 :コロナ禍 R5 :3,947名 R6 :4,132名 R7 :4,780名(11月末時点) ■調査利用者及び調査利用件数 H28～R1の平均値以上の数値を設定。 【実績】 H28:利用件数30件、利用者3名 H29:利用件数30件、利用者2名 H30:利用件数80件、利用者5名 R1 :利用件数100件、利用者7名 R7 :利用件数0件、利用者0名(11月末) ・平均：利用件数60件、利用4.25名	—	—	—	【今後のスケジュール】 修復した資料を積極的に展示会や研究紀要等において公開するとともに、研究者への調査利用も受け入れ、得られた調査結果の公開を行っている。	【R8成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
5	⑤	歴史遺産保存活用事業	8	4	9	3	古くから中国、東南アジア諸国等との交易・交流を通じて形成された沖縄独自の歴史遺産を保存・活用・継承するため、久米島近海に残る朝貢貿易の歴史遺産の一部の展示及び海底に残される遺産の動画を制作し広く公開する。	・遺産の展示：4基 ・東奥武海底遺物の映像制作：1動画	・遺産の展示完了 ・東奥武海底遺物の映像制作完了	×	計画改定スケジュールに基づき設定(スケジュール) R8：展示、映像制作 R9：公開・活用	本事業の成果目標は、展示等の開催に係る指標を設定すべきであるが、整備中であり検証が困難なため、本年度の成果目標は、定性的な指標を設定した。	博物館入館者数：4,600名	過去の実績を参考に設定した。 【実績(年度)】 R4：3,204名 R5：3,294名 R6：4,132名 R6年度以上の数値を設定。 4,132×1.1=4,600名(468名増) ※博物館にて展示や映像の公開を行う。町民のほか、観光事業者と連携した取組を行い上記の増加を目指す。	【R9成果目標】 ■博物館入館者数：4,600名 【今後のスケジュール】 地域の歴史を如実に示す特徴的な痕跡であるため、関係課や観光協会と連携して、学校や修学旅行などの教育関係を中心に利用を促し、目標の達成につなげていく。また、民間事業者主体の遺跡見学ツアーの造成が行われ、町民のほか、観光事業者と連携した取組を行い上記の増加を目指す。	【R9成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
6	①	航空運賃コスト負担軽減事業	30	4	14	3	観光入域数の増加を図るため、航空事業者が観光客等に対して運賃を割り引いて販売した際の差額分を補填することで、割高な運航運賃の低減を行い観光客等が訪れやすい環境を整備する。	交流人口を対象とした航空運賃割引の実施	■久米島町への観光入域者数：130,000人以上	○	■久米島町観光振興基本計画に基づき設定した。 【実績】 ・H27:103,551人 ・H28:111,546人 ・H29:109,742人 ・H30:103,309人 ・R01:100,716人 ・R02:54,783人 ・R03:54,206人 ・R04:84,779人 ・R05:90,082人 ・R06:88,527人	—	—	—	【今後のスケジュール】 ・観光振興基本計画の目標値を基準とし、入域観光客数の増加を目指す。	【R8成果目標設定の考え方】 ■久米島町観光振興基本計画に基づき設定した。
6	②	児童・生徒各種大会派遣支援事業	27	4	14	3	島外において開催される各種大会等への参加を通じて児童・生徒に広い視野を持たせるため、同大会等の参加に要する派遣旅費に対する支援を行い、地理的・経済的な理由に左右されず参加できる環境を整備する。	島外で開催される各種大会・コンクール等に参加する生徒の保護者に派遣旅費を支援：453人	■島外において開催される各種大会等に参加して視野が広がったと回答した児童・生徒の割合：80%以上	○	■児童・生徒を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が視野が広がったと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 派遣旅費の補助により多くの生徒に派遣機会をもちます。	【R8成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が視野が広がったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。

6	③	幼稚園児預かり保育運営事業	6	7	14	3	就学 1 年前の子どもを安心・安全に預けられる環境を整え保護者の育児に係る負担感を軽減するため、幼稚園児の預かり保育を実施する。	・預かり保育の実施：2 園	■安心・安全に子どもを預け、育児の負担感が軽減されたと回答した保護者の割合：80%以上	○	■保護者を対象にアンケートを実施し事業の効果やおの方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が育児の負担が軽減されたと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 ■預かり保育指導員・ヘルパーを確保し、預かり保育を実施する。	【R7成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が負担感が軽減されていると考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
6	④	離島交通課題対策事業	7	4	14	3	公共交通、観光バス及び各産業の資材等を運搬するトラックの運行を維持することで、住民並びに観光客の利便性の確保と、各種産業の経済活動の下支えを図るため、当該運行のドライバーに従事する意欲のある者に、一定の条件を付して大型免許の取得に係る費用の一部を支援（補助）する。	・大型免許を取得する者への補助：5 名	■公共交通（町営バス）、観光バス、資材等を運搬するトラックを運行するドライバーへの従事者数：5 名	○	■本事業で大型免許を取得後、ドライバーに従事させることで、公共交通、観光バス及び各産業の資材等を運搬するトラックの運行が維持できることから従事者数とした。指標については、活動目標の達成率100%（5 名）となる数値を設定。 ※ドライバーの不足、今後の高齢ドライバーの引退を勘案して、中長期的にドライバーを育成・確保する計画	—	—	—	【今後のスケジュール】 不足するドライバーを、計画的に育成・確保できるよう広報活動を強化して取り組む。	【R8成果目標設定の考え方】 ■ドライバーの不足数及び高齢に伴う引退数を勘案して設定した。
6	⑤	景観まちづくり推進事業	8	4	9	3	久米島ならではの豊かな自然、田園風景、歴史文化名所等を保全し、良好な眺望景観の確保・創出を図るため、景観形成の指針となる計画の検討及び改定を行う。	景観まちづくり計画改定版の策定：1 件	景観まちづくり計画改定版の策定完了	×	計画改定スケジュールに基づき設定 (スケジュール) R8：計画改定 R9：計画施行	本事業の成果目標は、景観保全に係る指標を設定すべきであるが、計画策定中であり検証が困難なため、本年度の成果目標は、定性的な指標を設定した。	計画策定後 1 年目（R9年度）の成果目標を以下のとおりとする。 策定する計画の中で、本町の景観保全に係る目標値を設定し、当該数値を目標とした景観形成を進める。	本事業で策定する計画の中で景観保全に係る戦略・目標値を決定するため、現時点で定量的な指標を設定することが困難である。数値については、策定する計画の目標とする水準を設定する。	【R9成果目標】 ■策定する景観まちづくり計画において、景観保全に係る目標値を設定し、当該数値目標とした施策を実施する。 【今後のスケジュール】 R8：計画改定 R9～：計画施行、施策展開	【R9成果目標設定の考え方】 ■R8に策定する計画の中で調査・検討し設定する